



## 「ふれあい学級」の見学旅行

昨日3日(木)は、ふれあい学級が、市民会館で行われた音楽劇「あらしのよるに」の鑑賞に出かけました。音楽劇を鑑賞することによって、豊かな心を育むことやマナーを学ぶこと目的としています。子供たちは、オオカミの吠える様子をみながら、同じように吠えてみたり、生演奏の音楽に合わせて手拍子を叩いてみたりしながら、演劇の世界にどっぷりつかっていたようです。



演劇が終わってサクラマチノの屋上で、自分たちで買ったお昼ご飯も食べました。また、バスの中では自分たちでお金を払って、バスの乗降ができました。こういう経験が、社会性を身に付けることにつながります。今回の見学旅行でちょっぴり成長した子供たちです。

## 特別支援学級「ふれあい学級」について

特別支援学級とは、小・中学校に設置されている障害のある子供たちを対象にした少人数の学級です。帯西では「ふれあい学級」と呼んでいます。ここでは、自立活動や各教科等を合わせた指導など、障害による学習や生活の困難を克服するための特別の指導を、子供たちのニーズに応じて行う特別の場になります。

帯西でも行っている交流及び共同学習は、ふれあい学級に在籍する子供たちが、通常の学級の子供たちと一緒に必要な教科や行事などを行う形態で、それぞれの学級は「交流学級」などと呼ばれています。特別支援学級の対象となる子供たちについては、障害の有無だけではなく、その人の状態や校内・地域の体制などを総合的に検討し、判断していくこととなります。

国では障害者の権利に関する条約が批准され、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築が求められるなど、特別支援教育を取り巻く状況は大きな変化の中にあります。インクルーシブ教育システムにおいては、障害のある子供と障害のない子供が可能な限り同じ場で共に学ぶことを目指す一方で、障害のある子供の自立と社会参加を見据えて、その能力を十分に伸ばす指導を行うことが大切です。

これは、特別支援学級だけが必要なことではなく、学校は全ての子供たちの力を伸ばし、社会に繋いでいくという意識を持つ必要があります。一人一人の教育的ニーズの把握をしたり、子供たち一人一人が持てる力を発揮できるようにしたり、教師と子供たちとの信頼関係を大切にしたりすることが、これからの教育には欠かせません。そうすることで、学校という小さな社会の中で、子供たちは安心して過ごすことができ、活躍の場が与えられ、活躍を認められることによって、自信を育てていくのです。そういう学校にするための途上にはありますが、ケース会議等で、子供を中心に据えた話し合いを行い、子供・家庭のニーズに応じた取り組みを、学校の資源を生かして、チーム帯西でできることを、日々知恵を出し合いながら教育実践を行っています。

